

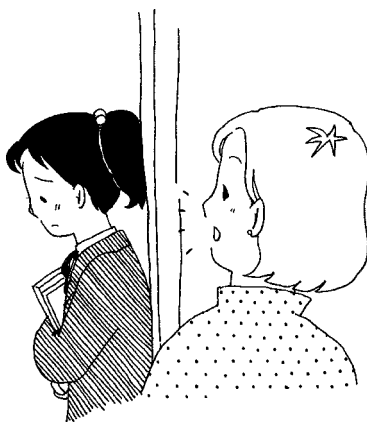
キーワード12 サイン

Yさんは、いつも活発で部活や学級のリーダー的な存在だった。それが、二学期の中ごろから急に元気をなくしたように見えた。

担任のZ教諭が職員室でYさんの様子を話すと、他の教諭から、「昨日、職員室の前で一人であるYさんを見かけた。そのとき『何か用があるの?』と声をかけたが、何も言わず離れていってしまった。」「そういえば最近部活に遅れてきたり、早めに帰ってしまったりするがあった。」などという話を聞いた。

Z教諭は、それらの行動が、YさんのSOSのサインではないかと思った。

そこで、Z教諭は、その日のうちにYさんに声をかけ、「このごろ何だか元気がないね。悩み事があるなら話してごらん。一人で抱え込むとつらくなるよ。」と言ったところ、Yさんは、「実は携帯電話に『Yのうそつき』というメールが何度も届く。友達が信じられなくなった。家にも問題が多くて、何もかも嫌になった。もう学校に来ることもやめようと思っていた。」と自分の気持ちを話し始めた。



この事例で、担任がYさんのサインに気付かないままでしたら、Yさんは不登校になっていたかもしれませんでした。

子供のサインに気付く

学校の中で子供の様子が「いつもと違う。」と感じるときがあります。問題が表面化する前には、必ず子供はサインを出します。教師がこのサインに気づき、早期に対応することが、問題の深刻化を防ぎます。まずは、子供のサインに気付くアンテナを常に張ってほしいものです。また、子供のサインに気付いたら、さりげなく声をかける行動が大切です。

不登校のサイン

よい子で頑張る子供が、教師や保護者が気付かないうちにエネルギーを失くしてきて、不登校になることがあります。しかし、子供は事前に、「頑張り続ける余力がなくなってきた。」「息切れしてきた。」ことをサインとして出すものです。不登校のサインには、以下のようなことがあげられます。

- ① 体の不調を訴え、保健室に行くことが増える。
- ② 体育の授業、昼食時、休み時間などに元気がなく他の子供と交わらない。
- ③ 授業中、集中せず精彩がない。
- ④ 休日の翌日に欠席することが多い。
- ⑤ 欠席の理由は「風邪」と報告されるが、ずるずると長引いたり、断続的に繰り返される。
- ⑥ 部活動や委員会活動をやめたがる。
- ⑦ 成績が急に低下する。